

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

物流に対する意見	対応
<p>✓ 種類ごとに荷量を把握し、今後、どれほどのポテンシャルがあるのか更に突っ込んでもらえるといい。（長利委員）</p>	<p>✓ 今後行う港湾計画の改訂の際、貨物の種類ごとに分析を行い、施設の規模や配置の検討していきます。</p>
<p>✓ 水産物は、陸送により神戸港並びに横浜港まで運搬している状況である。金沢港では保管する冷蔵庫が重要であり、水産物取扱量を伸ばすためにも、運搬、冷蔵庫保管料の支援が必要。（嶋崎委員）</p>	<p>✓ 水産物の取扱いは、食品の利用に含まれる重要な課題と捉えており、ご意見を参考に金沢港の水産物を含めた食品利用の拡大について検討を進めていきます。</p>
<p>✓ 大浜ふ頭に外貨貨物を集約する案は賛成である。今後、具体の施設配置や冬場の風浪などの課題を解決してほしい。（中倉委員）</p>	<p>✓ 港湾計画の改訂を行う中で、検討していきます。</p>
<p>✓ コンテナターミナルの大浜への沖合展開は、今後を考えると適地である一方、冬期の波浪、風といった問題について、港湾計画の改訂の中で検討を進めていただきたい。（堀岡委員）</p>	<p>✓ 港湾計画の改訂を行う中で、検討していきます。</p>
<p>✓ 内航船が就くようになれば、北海道や九州との貨物量が確保できるので、金沢港就航を検討してほしい。（溝口委員）</p>	<p>✓ 施策の一つである定期航路の維持拡充の中では、国際定期航路だけでなく、内航船も含めた航路の拡充を考えており、ご意見を参考に北海道や九州との内航航路の誘致などを含めて取り組みを進めていきます。</p>

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

クルーズ・賑わいに対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金石海岸を多くの方が訪れる親水空間に整備することが必要不可欠。（下沢委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金石海岸の土地利用については、地元の意見を十分にお聞きしながら、検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港の看板は「食」であり、水産業との連携が必要不可欠。（下沢委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 賑わい創出に向けては、水産関係の方々や、「みなとオアシス金沢港運営協議会」とも連携し、取り組んでいきます。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 冬にクルーズ船が来ないので、冬場の賑わい創出を検討する必要がある。（高山委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ これまでも、冬場も含め、民間企業の展示会や発表会、あるいは子どもたちの遠足・運動会、飲食・物販イベント等、クルーズ船の受入れ以外にも活用いただいております。今後もCIQエリアやセミナールーム、展望デッキなど、各空間の特徴を活かした利用の働きかけを行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港、ターミナルへ呼び込むための仕組みづくりが必要である。観光で街なかへは、多くの方が訪れるが、海の方へはなかなか行かないことから、海の方へ行く機会（魅力）を作ることも重要である。（長谷川委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クルーズターミナル周辺について、民間事業者とともに人々が集い、交流ができる質の高い賑わい空間の創出を図ります。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交流人口だけでなく、定住人口の観点も必要であり、アクセス、物販施設等も継続して考えていただきたい。 （藤村委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アクセスについて、金沢港周辺におけるバス等のサービス水準向上を目指します。物産販売については、クルーズ船の寄港やイベントなどの開催状況により、来館者数が変動することもあり、採算上の課題が大きいため、常設の物産店ではなく、クルーズ船の寄港に合わせた県産品の販売を検討していきます。

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

クルーズ・賑わいに対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none">✓ 金沢港はラグジュアリーの寄港比率が高いというメリットがあるので、今後、ラグジュアリーを伸ばし、量より質へシフトしていくと良い。また、水産業との連携もクルーズ旅行の中で面白い要素である。（村山委員） ✓ 県民向けの金沢港発着クルーズ政策も検討していけば良いのではないか。（村山委員）	<ul style="list-style-type: none">✓ 県では、乗客1人あたりの消費額が高いため、より高い経済効果が期待できるラグジュアリー船の誘致に注力してきました。今年のラグジュアリー船の寄港本数は過去最高の31本となっているところであり、引き続き、ラグジュアリー船の誘致に注力していきます。また、クルーズターミナルからいきいき魚市へのアクセス向上を図り、連携することで一層の賑わい創出に努めていきます。 ✓ 経済効果の高い発着クルーズやラグジュアリー船の誘致を推進するため、金沢港の優位性や北陸新幹線県内全線開業を活かしたポートセールス活動を強化するとともに、金沢港からの乗船機会の拡大にも努めていきます。

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

レクリエーション・緑・景観に対する意見	対応
<p>✓ 景観施策について、加賀五彩を差し色のような色彩で金沢の1つのイメージを作っていく方向性は良いと思う。今後、金沢市や地元、企業との調整を行う段階になってくる。 (坂本委員)</p>	<p>✓ 金沢港の景観形成に向けた基準づくりを金沢市と連携し取り組んでいきます。</p>
<p>✓ 白砂青松のような、海岸線づくりというものが、今後の開発の中で考えていくと良い。(坂本委員)</p>	<p>✓ 金沢港の景観形成に向けた基準づくりを金沢市と連携し取り組んでいきます。</p>
<p>✓ かなざわ総合市場は設計が進んでいる段階だが、景観をつくりだす重要な施設であることから、調整を進めていてもらいたい。(坂本委員)</p>	<p>✓ 金沢港の景観形成に向け、石川県漁協とも調整していきます。</p>

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

カーボンニュートラルに対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 港周辺には、加賀野菜の農家もいるので、何か連携できることがないか探ってみることも大事である。（池本委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 脱炭素化は取り組むべき重要な課題であることから、事業者と情報を共有しながら、港湾管理者としてできることを模索していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 荷役機械等の電動化だけではなく、使用する電気を再生可能エネルギーにより生産されたものであることが本来のカーボンニュートラルである。（長利委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発電事業者や石川県の関係部局とも連携を行いながら、再生可能エネルギーにより生産されたエネルギーの活用も今後の検討課題としていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港の弱点（風や波が強い）を利用した再生可能エネルギーを作り出すこともアイデアである。（長利委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後のエネルギー施策の動向も踏まえながら、様々な視点からカーボンニュートラルポートの形成を民間事業者とも連携し推進していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ LNGバンカリング供給基地については、今後どれほどの量が必要なのか知る必要があり慎重に検討すべき。 （神崎委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後、どの程度需要があるのか不透明であることから、まずは、LNG燃料船の開発動向に注視していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ あわら沖などで洋上風力の計画されているが、組み立て基地が決まっておらず、また、沖合いで浮体式の開発も今後進展してくれば、非常に良好な再生可能エネルギーの供給基地となり得るポテンシャルがある。（神崎委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金石大野埋立用地については、新たなエネルギーに対する要請に応じて活用する脱炭素化推進ゾーンに位置付けており、再生可能エネルギーの供給基地としての利用についても可能性があれば、積極的に事業者に働きかけていきます。

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

安全・安心に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none">✓ 今後、港湾計画の改訂内容を検討する際、船が安定的に泊まれることに加え、土砂ができるだけ港内に入らないことを技術的に検討（※防波堤の延長や浚渫土砂の転用等）して、対応してほしい。（榎田委員）✓ 計画が変われば船の流れも変わり安全対策が必要となってくる。港湾計画を改訂する際、静穏度の確保について検討を進めてほしい。（福井委員）	<ul style="list-style-type: none">✓ 土砂の流入については、防砂堤の設置など港内の堆砂を減らせるよう、港湾計画改訂の中で検討していきます。✓ 港湾計画の改訂の際、新たな配置計画に対する航行安全についても検証していきます。

第2回委員会 各委員の主な意見と対応

土地利用に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港湾事務所跡地等周辺は、空き地としてでなく、合同庁舎も含め土地利用を考えていただきたい。また、開発には民の力も借りるべきと考える。(下沢委員) ✓ 8.3haの埋立地の活かし方を国県市一体となって検討する必要あり。(下沢委員) ✓ ターミナル内に簡単なコンビニやお土産の購入施設があると、従業員やお客様にとって大変助かる。(中倉委員) ✓ クルーズ客のみならず県民が金沢港のメリットを享受出来るような施設になってほしい。(長谷川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港湾事務所跡地周辺については、土地の所有者や関係者と今後の土地利用のあり方について、継続して検討していきます。 ✓ 地元の意向なども確認しながら、国や市と連携し、土地利用について検討していきます。 ✓ 建設時にも検討し、コンビニ各社に出店を打診していましたが、クルーズ船の寄港やイベントなどの開催状況により、来館者数が変動することもあり、採算上の課題が大きいことなどから、現状では設置は困難であると各社から聞いています。今後は、いただいたご意見を参考に、ニーズを見極めながら対応してまいります。 (なお、来館者からの飲食にかかる要望には、(常設のコンビニではなく、) 1階待合エリアの自動販売機や、2階のレストランを利用いただくことで対応しております。) ✓ これまでも、民間企業の展示会や発表会、あるいは子どもたちの遠足・運動会、飲食・物販イベント等、クルーズ船の受入れ以外にも活用いただいております。今後もCIQエリアやセミナールーム、展望デッキなど、各空間の特徴を活かした利用の働きかけを行ってまいります。

その他の意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ もっと広いエリアにおける50年ほどの超長期のビジョンをまとめてほしい。(高山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 将来ビジョンを20から30年先を見据え策定し、時代の変遷を見ながら、適宜修正を行っていきます。